Video Workshop | Surgery

Fri. Nov 20, 2026 2:00 PM - 3:30 PM JST | Fri. Nov 20, 2026 5:00 AM - 6:30 AM UTC | Room 4 (2F Convention Hall 4)

Video Workshop 5 Robotic Surgery for Colon Cancer: Where Should It Stand? — Lessons from Outcomes and Challenges 2

司会：松田 宙（JCHO大阪病院　外科）、髙橋 広城（名古屋市立大学医学部附属西部医療センター）

[VWS5-1] Safety and Utility of Robotic Colon Surgery Compared to Laparoscopic Surgery: A Retrospective Analysis Using a Multicenter Database

*Tetsuro Tominaga[1,2,3] (1. Colorectal surgery, Nagasai University Hospital)

背景：結腸癌に対するロボット手術が保険収載され、現在全大腸癌に対しロボット手術の施行が可能となった。結腸癌においても、ロボット特有の精緻な手術が可能となる一方、直腸癌と比較し広範囲の授動を必要とするため様々な課題も多く、周術期成績に関する報告も限られている。
対象：2016年から2025年までに長崎大学および関連7施設において、結腸癌に対し鏡視下に結腸切除を施行した4084例を、ロボット手術群（R群：n=438）および腹腔鏡手術群（L群：n=3646）に分類した。Propensity score matchingにて背景因子を調整し、各群438例が抽出された。臨床病理学的因子および周術期成績について比較検討した。
結果：Matching前は、R群において年齢が若く（72歳 vs 73歳、p<0.001）、S状結腸切除が多く（51.4% vs 40.5%、p<0.001）、cT4が少なく（13.7% vs 20.3%、p<0.001）、cN positiveが少なく（27.2% vs 41.5%、p<0.001）、遠隔転移が少なかった（5.9% vs 11.5%、p<0.001）が、Matching後は両群間の背景に差はみられなかった。Matching後は、手術時間は同等（218分 vs 208分、p=0.905）で、R群において出血量が少なく（10ml vs 15ml、p=0.027）、術後合併症が少なく（7.5% vs 15.3%、p<0.001）、術後在院日数が短かった（10日 vs 12日、p<0.001）。
結論：結腸癌に対するロボット手術は、腹腔鏡と比較し出血量や合併症の軽減、在院日数の短縮など良好な短期成績であった。

©一般社団法人 日本大腸肛門病学会